

山行計画

大雪山縦走8月18日(金)～22日(火)

参加者：前田 大沢 一之瀬 武石 角田 星野

- 18日(金) 羽田空港 11:15－旭川空港 12:50－旭岳温泉－旭岳青少年野営場
- 19日(土) 旭岳青少年野営場－姿見駅－旭岳－北海岳－白雲岳避難小屋(またはテント)(5:20)
- 20日(日) 白雲岳避難小屋－忠別岳－五色岳－化雲岳－ヒサゴ沼避難小屋(またはテント)(7:40)
- 21日(月) ヒサゴ沼避難小屋－トムラウシ山－温泉コース分岐－トムラウシ温泉－トムラウシ野営場(テント)(8:50)
- 22日(火) トムラウシ野営場－新得駅－南千歳－新千歳空港－羽田空港
- 23日(水) 予備日

劔岳北方稜線9月11日(月)～14日(木)(前田)

参加者：前田他1名

*参加者がいれば一般ルートから劔岳も検討

北八ヶ岳9月24日(日)夜行バス～26日(火)(武石)

コース：八ヶ岳山荘－赤岳鉱泉－硫黄岳－夏沢峠－根石岳－東天狗－唐沢鉱泉(泊)
唐沢鉱泉－高見石－麦草峠－縞枯山－坪庭－ロープウェイ利用－バス・JR茅野駅

参加者：吉田、鈴木、一之瀬、野間、瀧、武石

山行報告

黒部五郎岳・薬師岳7月20日(木)～24日(月)

(記録：一之瀬、写真：佐藤文)

参加者：武石、加賀屋、佐藤文 一之瀬、三浦、国島、野間、瀧、星野、堀江(10名)

コースタイム：20日 横浜駅 20:47 発 竹橋 22:30 発

- 21日 新穂高 6:10 着 7:00 発－笠新道分岐 8:10－秩父沢 10:35－イトリヶ原 11:45－鏡平山荘 14:05
- 22日 鏡平山荘 5:45－弓折り乗越 6:50－花見平 7:20－黒百合ベンチ 7:40－双六小屋 8:25－双六岳 10:08－三俣蓮華岳 11:55－巻道分岐 13:10－五郎小屋分岐 13:57－五郎小屋 14:20

23日 五郎小屋 5:30－黒部五郎の肩 8:15－山頂 830－肩 8:45－中俣乗越 9:50－赤木岳 11:50－北の俣岳 13:05－太郎平小屋 15:10

24日 太郎平小屋 7:00－五光岩ベンチ 7:50－三角点 9:20－折立 10:55－(タクシー) 白樺ハイツ 11:55(温泉)－富山駅 13:40－ハクタカ 15:13 乗車－東京 17:52

21日、予定通り、新穂高温泉に着いた。バスは、シートが豪華でゆったりできた。朝食、準備をし、7:00 行動開始。1年ぶりの再訪だ。4日分の重い荷物を担ぎ、蒲田川に沿って、左俣林道を行く。山からの冷気が噴き出している所があり、前方が霞んでいた。

1時間ほどで、笠新道分岐に着く。湧き水を飲み、小休止。わさび平小屋を過ぎて小池新道に入る。

登山口を過ぎると、すぐに大きな雪渓があった。雪渓の下から流れ出す清水、冷気が気持ちよい。石ころの急登が続く。晴れていてとても暑い。灌木が多く、日陰に入るとホッとすする。

何回目かの雪渓を越え、丸木橋を渡ると、秩父沢だ。視界が開け、後方を振り返ると、登山口が遥か下に見える。雪渓から流れ出す清冽な水を口にすると、疲れが吹き飛ぶ。

15分ほど休憩し、再び石ころの登山道を登っていく。今年は本当に雪が多かったようだ。沢のいたる所に雪が残り、何回か渡り返して登る。



イタドリヶ原の少し上で、昼食・休憩にする。

12:15 出発。高度差 300m、あと 2 時間位か。食事を摂ると元気が出てくる。

「さあ、もうひと頑張り」と、石ころの急坂と雪渓登りを繰り返しながら、高度を稼いでいく。

昨年、昼食を摂ったシシウドヶ原は、雪渓の中に埋も

れていたようで、気が付かなかった。大きなキヌガサソウが群生し、エンレイソウやマイズルソウも咲いていた。

花に癒されながら、登っていく。少し登山道が緩やかになった所に、「あと 500m」の表示。あと少しだ。

さらに登っていくと、「あと 5分」の表示。元気が出る。14:00 ようやくテラスのある鏡池に着いた。

今年も残念ながら、ガスっていて、槍ヶ岳や穂高の全景は池には映らなかった。残念！

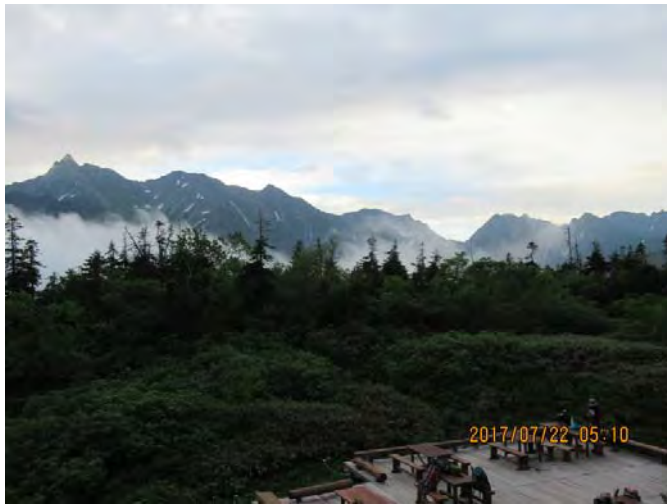
14:05 鏡平山荘に着いた。全員揃って生ビールで乾杯。

暑かったので、ことのほかビールが美味しい。去年は双六小屋まで登ったことを思うとすごかったなあと思う。

鏡平山荘の乾燥室は強力で、あっという間に汗で濡れたものが乾いた。

大きなコロッケの付いた食事もよかった。

22日、5:45 鏡平山荘を出発。木道をまわり、短い急な



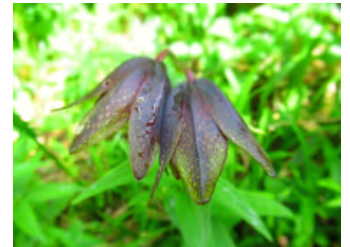
鏡池 5:10



鏡平山荘 5:36

尾根を登る。20分程登ると、森林限界を越え、なだらか

な登りになる。ガスがきれて、天気が良くなってきた。槍、穂高、右手奥に乗鞍岳が見える。足元の花や景色を見ながら、弓折岳の斜面を登る。6:50 弓折乗越に着く。すぐ近くまで雪渓があった。休憩をとり、さらに稜線を登っていく。7:20 花見平に着く。右手に雪渓が広がり、左手にはお花畑が広がる。ハクサンイチゲ、シナノキンバイ、イワカガミ、咲き始めたばかりの花々は瑞々しく可憐で美しい。花の写真を撮り、出発。



アップダウンを繰り返しながら、登っていく。

7:40 黒百合ベンチ。黒百合が群生していた。

あまり見かけない花に歓声上がる。

思ったより小さな花だった。

双六小屋への緩やかな登山道を下り、8:25 双六小屋に着く。今日は今年一番の宿泊者とか。

休憩してから、小屋横の急な登山道を登っていく。

9:00 分岐。雪渓が残っているので、直登ルートは登れない。中道へ行く。去年登った鷲羽岳・その後ろの水晶岳、手前に硫黄岳が見える。

鷲が羽を広げたような鷲羽岳は、やはり格好いい。

登山道に沿って、地に這うようにキバナシャクナゲが咲いている。黄色く透き通ったような花が美しい。

9:25 春道分岐。雪渓を横切り、巻くように登る。

直登ルートに合流すると、なだらかなザレ道になる。広く平らな稜線を登り、急な岩場を登り切ると広い台地になった山頂(2860m)に着いた。

10:08 双六岳山頂。槍、穂高方面は白いガスで覆われ、見えない。去年は大展望が楽しめたが、残念だ。

休憩後下山。急な岩場を下り、10:50 中道分岐に着く。

緩やかな稜線歩きと急な登りを繰り返しながら、ハイマツ帯とお花畑が広がる丸山の稜線を歩く。



双六岳 10:23

東側斜面は雪渓が広がり、雪渓から吹く風が心地よい。山々の沢筋には雪渓が残り、山岳写真のようだ。

急な岩場を15分ほど登り、稜線に出る。

11:55 三俣蓮華岳(2841m)の山頂に着いた。

今日は余裕があるので、ゆっくり昼食にし、赤牛岳、雲ノ平、鷲羽岳等の展望を楽しみながら、休憩した。

相変わらず東側の槍、穂高方面は見えない。

雲ノ平から来た人が、雪渓が残っているため、ずいぶん回り道をしたと話していた。

12:45 出発。急坂を下り、稜線を歩く。13:10 巻道分岐。石のごろごろした急坂を下ると、ハイマツ帯の稜線に出る。しばらく稜線を歩く。

13:57 黒部五郎小屋への分岐。雪渓を横切り、石のごろごろした急坂を下る。遥か下に小屋の赤い屋根、点在する池塘が見える。

滑らないように慎重に下り、14:20 黒部五郎小屋に着いた。小屋前のベンチは他グループに占領されていて、端の方で、今日の乾杯をした。

(このグループとはずっと同じ行程だった) 天気が怪しい。夕刻から雨になった。

小屋の食事は、野菜のてんぷらが美味しかった。

同じ双六小屋グループなので、食事が良いのかも。

(昨年の双六小屋では、ビールがサービスされたなあ…)

23日、5:30 雨具を着て黒部五郎小屋を出発。灌木の中、石ころの登山道を緩やかに登る。小さな沢をいくつか越える。6:30 雪渓の下で休憩。



黒部五郎小屋 8:31

途中から雨が本格的になり、雨具の装備をしっかりとした。大きい石がゴロゴロしている登山道を登る。

その先の大きな雪渓(五郎のカールと思われる)に登り、さらに、つづら折りの急坂を登る。

7:15 稜線に出た。風雨が強くなる。雪渓を越え、さらに登る。登山道わきに可憐なイワギキョウ、トウヤクリンドウを見つけた。風雨に打たれ、咲く姿は健気だ。

8:15 五郎の肩に着いた。荷物をデポして、山頂を目指す。8:30 黒部五郎岳山頂(2839m)。薬師如来の祠があり、古くからの信仰の山だそうだ。石仏はあったが、よく分からなかった。ガスがかかり、何も見えないので、写真を撮ってすぐに下山した。



8:45 五郎の肩を出発。下りは、ゴロゴロした岩、つづら折りの急下降が続く。風雨が強く必死に下る。

9:40 中俣乗越。強風にあおられながら、稜線を歩く。

10:50 ゴロ田。池塘が点在する草原に出た。

草原はすぐに終わり、再びゴロゴロした急な石の登山道を登る。雪渓がたくさん残っている。雪渓の横を登ったり、横切ったりしながら登る。

風雨とガスのため、雪溪の上は足跡が見えにくい。
黒部五郎岳は、巨岩がゴロゴロしており、そういう岩場を「ごーろ」と呼び、その当て字が「五郎」だ。

地名の黒部と岩場の五郎が山名の由来となっているようだ。大きな岩がゴロゴロしている訳だ。

11:50 赤木岳 (2622m)。急坂を登り、山頂へ。

山頂は鋭い岩峰になっていたが、直下を巻いたので登らずに済んだ。

岩場を下って、ハイマツ帯の中に入り、昼食にした。

東側にまわると、少し風雨が弱まる。食事を摂り、エネルギーを補給する。

北の俣岳への稜線は、強風と叩きつけるような雨に吹き飛ばされそうになりながら、必死で歩いた。

ガスのため、周りは何も見えず、現在地も分からず不安になった。はぐれないように声を掛け合った。

13:02 今年初めての雷鳥に遭遇。私たちの道案内をするようにちょこちょこ登山道を先導していく。

雷鳥が左手のハイマツ帯に飛び去った後、少し歩くと、
13:05 北の俣岳の山頂 (2661m) に着いた。

北の俣岳の山頂は広い。緩やかに下り、13:15 神岡新道分岐に着いた。右手に雪溪、左手にお花畑を見ながら、木道を歩く。北の俣岳から太郎山は、緩やかな稜線が大きく長く続く。池塘が点在する草原には、木道が敷かれ、雪溪とイチゲやチングルマのお花畑が続く。

風雨は激しいが、木道を歩いている時は花を見る余裕もある。湿原に咲くミツバオーレン、ニッコウキスゲも見えた。木道が途切れると、登山道は、激流のように水が流れ下る。叩きつけるような風雨と激流のような登山道、歩くのも必死だ。

晴れていれば、この上ない稜線歩きが楽しめたのだろうにと、天気が恨めしい。

風雨の中、稜線を2時間ほど歩き、体力も限界に近づきつつあるとき、白い霧の中に、山小屋が現れた。

15:10 太郎平小屋に到着。強風と雨のため、足止めされた人が多く、大変な混みようだったが、

二部屋もらえた。出迎えてくれた山小屋の人は、濡れたままあげてくれたり、荷物を持ってくれたり、親切だった。

身体が冷えて、ビールを飲む気にもなれず、濡れたものの処理におわれた。

乾燥室はすし詰め状態で、かけるハンガーもなかった。

朝食の手配があり、明日の予定を聞いたが、全員、薬師岳はパス、即決だった。

また、来年ということになりそうだ。夕食は、とんかつが美味しかった。食後は男性の部屋に集まり、楽しい一時を過ごした。

薬師岳に行かないと決めたので、気持ちが楽になったようだ。タクシーの手配を変更する。

24日、7:00 太郎平小屋を出発。



太郎平小屋 6:56

太郎平から緩やかな下り、登りを繰り返し、なだらかな草原を歩く。濃霧の中に浮かぶ灌木と草原は幻想的だ。7:50 五光岩ベンチ。草原の中に木道が続き、ニッコウキスゲが群生している。



晴れていれば、素晴らしい景観なのだろう。

途中、大きな薬師岳の稜線が見えたが、山頂は白いガスの中だ。9:20 三角点。この先、樹林帯の中の急坂を下る。昨日の雨に削り取られた荒れた登山道を下る。

途中、珍しいギンリョウソウがあちこちに見られた。色素の無い透明な花だ。

10:55 折立に到着。雨具を片付け、タイミングよく到着したタクシーに乗って温泉へ向かった。

11:55 白樺ハイツ、温泉入浴。13:00 出発。

13:40 富山駅着。昼食を摂り、15:13 発のハクタカで帰路に着いた。17:52 東京駅着。

その後、悲惨なぎゅうぎゅう詰の東海道線で、肩身を狭くしながら、横浜に帰り着いた。

今回、大展望を楽しめたのは、二日だけだ。

三日目は、豪雨と強風、濃霧。遭難の条件が揃ったような状況だった。リーダーの武石さんは、さぞ気を遣われたことと思う。

リーダーの適切な判断で皆無事に下山できた。

天気には恵まれなかったが、皆で力を出し合い、乗り切ることができた。

武石さん、皆様、本当にお世話になりました。

ありがとうございました。

集会記録 (一之瀬) 7月10日 (月) 18:00~20:00

参加者: 前田、鈴木、加賀屋、大沢、佐藤文、一之瀬、国島、三浦、武石、野間、瀧、角田、星野、山下

1. 山行報告

- ① 北岳 山行 (山下)
 - ・詳細は、山行報告
 - ・一人の女性登山者が多い。急登、厳しい。
 - ・準備、下調べは事前にし、天気の良いときに出発。
- ② 富士山 (山下)
 - ・7月7日 (金) ~ 8日 (土)
 - ・混んでいた。外国人がすごく多い。
 - ・半パン、運動靴で登っている人もいる。
- ③ 足柄~足柄山~明神・明星 (武石)
 - ・7月2日 (日) 夏山の暑さ対策訓練
 - ・ツェルト、寝袋など、荷物を重くして登った。明神から登山者が少なくなる。暑く、水分多く摂取。
- ④ 三浦・矢倉岳 夏山訓練 (国島)
 - ・7月2日 (日) 三浦アルプス縦走4人
 - ・7月9日 (日) 矢倉岳3人 暑さ対策になった。
- ④ 谷川 (前田)
 - ・土合5:00 出発。登り一辺倒。松ノ木沢の頭7:50 白毛門9:00 大休止。笠ヶ岳10:30、朝日岳で昼寝。清水峠15:00 避難小屋泊。翌日4:30 出発。

蓬峠6:30。崩壊してザラザラの道を下った。危険箇所、6.7ヶ所。土合橋11:00。温泉に入って戻った。水は意識的に飲むようにした。2.50位。ブヨが多い。虫よけスプレーが効いた。

2. 山行計画

- ① 夏山 黒部五郎岳・薬師岳 (一之瀬・瀧)
 - ・タクシー代の集金
 - ・山行の確認 帰りの新幹線 おときゅう持参
- ② 尾瀬 (前田)
 - ・7月14日 (金) 夜行~16日 (日)
 - ・OBと山行。標準タイムよりゆっくり。参加募集
- ③ 飯豊山 (野間)
 - ・8月4日 (金) 夜行バス~6日 (日) 帰: 新幹線
 - ・大日杉-地藏岳-切合小屋 (泊)
 - ・本山小屋-飯豊本山 往路を下山。
 - ・参加者: 鈴木、野間、大沢、一之瀬
- ④ 苗場山 (佐藤文)
 - ・8月5日 (土) ~6日 (日) 往復: 新幹線
 - ・越後湯沢-タクシー-和田小屋-登山-自然交流センター (泊) 往路を下山 タクシー-越後湯沢
 - ・参加者: 佐藤文、加賀屋、国島、三浦、瀧、前島 山下
- ⑤ トムラウシ (前田)
 - ・8月18日 (金) ~22日 (火)
 - ・参加者: 前田、大沢、一之瀬、武石、角田、星野
 - ・18日: テント泊、19日・20日 避難小屋利用可能
 - ・トムラウシ温泉 東大雪荘予約済 送迎バス利用
 - ・新得11:10 頃着 解散 帰路は各自
 - ・大雪山の縦走 (コース上) は、ヒグマは大丈夫。
 - ・水2,50 装備品はできるだけ軽く。
 - ・主食・行動食は共同。嗜好品は各自で用意。
 - ・費用: 宿泊費: 10,950円 (女) 9,870円 (男) 交通費 (往路) 28,000円位
- ⑥ 北八ヶ岳 (武石)
 - ・日 程 9月24日 (日) 夜行~26日 (火)
 - ・コース・山小屋の変更 黒百合ヒュッテ泊
 - ・八ヶ岳山荘-赤岳鉱泉-硫黄岳-夏沢峠-根石岳-東天狗-黒百合ヒュッテ泊
 - ・麦草峠-茶臼山-三ッ岳-北横岳-坪庭-ロープ

ウェイ利用ーバス・JR茅野駅

- ・参加者 吉田、鈴木、一之瀬、野間、瀧、武石
(7月10日時点) 次回集会まで募集

集会記録 (一之瀬) 7月25日(月) 18:00~20:00

参加者: 吉田、前田、鈴木、佐藤文、一之瀬、国島、武石、野間、瀧、角田、星野、山下

2. 山行報告

① 尾瀬 (前田)

- ・7月14日夜行~16日 OB3人
- ・沼山峠から入り、尾瀬の3ルートを楽しんで歩いてきた。御池ルートが一番良かった。16日は、三条の滝・燧ヶ岳に別れた。見晴新道から登った。柴安嶺には、シャクナゲが沢山咲いていた。朝ごはんを作って食べ、俎嶺から御池へ下った。三条の滝コースと合流し、16:00頃、御池から全員揃って帰ってきた。

② 黒部五郎岳・薬師岳 (星野)

- ・7月20日夜行~24日
- ・3列シート、快適だった。昨年と同じルート。雪渓がたくさん残り、何度か登ったり渡ったりした。14時、鏡平山荘に着いた。晴れて暑かった。
- ・22日、双六岳は、雪渓のため、直登できなかった。中道ルートから春道へ。三俣蓮華岳から黒部五郎小屋へ。尾根筋には雪渓が残り、咲き始めた花々がきれいだった。鷲羽岳、水晶岳、硫黄岳等見えた。黒部五郎小屋までは、急下降だった。
- ・23日、朝から濃霧。途中から暴風雨になり、吹き飛ばされそうになりながら、黒部五郎岳、赤木岳、北の俣岳の稜線を歩いた。途中、雷鳥に遭遇。ガスで周りが見えず、現在地が分からずに困った。北の俣岳から太郎山の稜線は長い。池塘、花畑、雪渓が広がっていた。登山道は川のようにになっていた。びしょ濡れになり、やっと太郎平小屋に着いた。
- ・24日、薬師岳は諦めて下山。11時頃、折立に着き、温泉に入って、新幹線で戻った。

2. 山行計画

① 飯豊山 (野間)

- ・コース、参加者、予約状況、登山計画書の確認

・サブザック必携。ツエルト持参(鈴木)

④ 苗場山 (佐藤文)

- ・コース、参加者、予約状況の確認

⑤ トムラウシ (前田)

- ・コース、参加者、予約状況、登山計画書の確認
- ・分担金は、次回提示。
- ・ガスカートリッジは、空港近くの現地で購入。
- ・ライター機内持ち込み荷物
- ・水場の情報、対向者に聞く。携帯トイレの使用

⑥ 北八ヶ岳 (武石)

- ・次回集会で、確認。

集会日 場所 県民サポートセンター

8月24日(木) 603号室 18:00~20:00

8月21日(月) は山行日と重なるので変更しました

9月4日(月) 602号室 18:00~20:00

9月25日(月) 602号室 18:00~20:00

9月25日(月) は山行日と重なるので変更予定です

10月6日(金) 303号室 18:00~20:00

10月23日(月) 603号室 18:00~20:00

11月6日(月) 603号室 18:00~20:00

11月20日(月) 1503号室 18:00~20:00

12月18日(月) 603号室 18:00~20:00